

親近感生かし寄り添う

コロナ不安、励ますラジオ

「ありがとう」「コロナに勝つぞ」。4月17日正午、福岡のRKBラジオのトーク番組。社員らが拍手しながら声を上げるのを2分間、生放送した。医療・介護従事者らに感謝を示す「フライデーオープン」。島の屋外スペースで約30人が互いの距離を空け、正面にある病院に向かって思いを送った。

担当君によると、娘夫婦が看護師というリスナーから2人への心配を吐露するメッセージが届け、急きよ実施した。放送後、「家々

新型コロナウイルスの感染拡大で不安が募る中、ラジオは送り手とリスナーとの気持ちの近さを背景に、寄り添い励ます役割を強めている。

▽双方向

「ありがとう」「コロナに勝つぞ」。4月17日正午、福岡のRKBラジオのトーク番組。社員らが拍手しながら声を上げるのを2分間、生放送した。医療・介護従事者らに感謝を示す「フライデーオープン」。島の屋外スペースで約30人が互いの距離を空け、正面にある病院に向かって思いを送った。



NHK札幌放送局の「まもろう」雑談ラジオの出演者ら（番組ホームページより）



「武内陶子のこのカフェ」のメインパーソナリティ

RKB社員ら 病院に向かって“感謝”

きたメディア。強みを発揮できるのは今です」と意気込んで話す。

▽中間意識

新潟曹陵大の確井真由教授（社会心理学）は、災害時などに、苦しみ人々の様子が繰り返し報道され、受け手が沈む共感疲労

▽エネルギー

「一緒に拍手しました」とメッセージを送るリスナーもいた。

NHK札幌放送局は3月に4日連続で特別番組「まもろう雑談ラジオ」を生放送した。北海道は独自の緊急事態宣言を全国に先駆けて出す状況で、「今こそ元気な雑談を」との思いで企画。13人のリスナーと電話をつないだ。

担当君は「音声だからこそ、微妙な心の揺れ動きが伝わる。リスナーは遭遇や気持ち共有できたと思ってく」と、「ラジオは何十年も前から双方向でやって

が中間意識を抱くと説明。「周囲に言えない気持ちも、パーソナリティーには伝えたいと感じるほどの親近感がある」と話す。ニッポン放送の担当君は「いつもの時間に、いつもの声を届けるのが、安心につながる」と自負する。

ラジオのネット配信サービス「Radiko（ラジオ）」の3月の利用者は、前月比120%に。NHK担当君はトーク番組「武内陶子のこのカフェ」へのメッセージ投稿が以前よりも増えたとし「普段以上に紹介し、リスナー同士が共

がコロナの報道によっても起きていると指摘。疲労に陥ると発想が後ろ向きになり、他者に不寛容になるなど人間関係に支障が出るケースもあるという。

特に刺激の強いテレビは消費時間をつくるのも大事だが、情報から離れるのに不安や罪悪感を抱く人に、ラジオは最適だとする「穏やかに情報を伝える上、リスナーと親密さが寄り添ってくれる。信頼関係の中に身を置くことは癒やしになり、エネルギーにつながる」と話している。



超現実的

ネット配信ドラマ

運命の人が軍事境界線向こうにいたら。米動配信大手ネットフリックスのドラマ「愛の不時着」は、男女の間にとつてもい障壁を捨て、ロマンスを超えた普遍的な愛を描出した。

韓国の財閥壘コン・ユリ（ソン・イヘジン）が、パラライターを機軸中に着巻に巻き込まれて非武装地帯（DMZ）に不時着。前線で任務に就いていた朝鮮の軍醫な将校リ・ジミン（ユン・ヒョ）が、